

安全教育



第38号

平成29年
2月24日発行
発行責任者
齋藤武彦

一般財団法人 横浜市安全教育振興会

〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話:045-662-7835 FAX:045-662-9831



理事長
齋藤 武彦

安振会加入のメリットとは……

安振会のメインの事業は幼児児童生徒に対する共済事業です。PTAの先輩たちが作り上げた事業です。発足当初の昭和52年は「横浜市PTA親子安全互助会」と称し、昭和62年に「財団法人 横浜市安全教育振興会」、平成26年に「一般財団法人 横浜市安全教育振興会」と変遷しつつ、現在に至っています。

幼児児童生徒の共済事業としては、安振会のほかに日本スポーツ振興センターの災害給付制度があります。日本スポーツ振興センターの災害給付が学校管理下であるのに対し、安振会の見舞金給付は学校管理下外を対象としています。ですから会員である幼児児童生徒は、生活時間すべての事故がカバーされているということになります。「子供たちがのびのびと過ごすことができるように、そして保護者が子供たちにゆとりをもって接することができるように」、という事業の趣旨は確実に生かされてきたものと考えています。

「安振会に入るメリットを教えてください」。そのようなお問い合わせをいただくことがあります。共済事業の趣旨は上記で述べさせていただいた通りです。そして共済事業の具体は次の通りです。

①1世帯年間500円の会費の内245円が共済掛金（平成29年3月現在）で、学校管理下外の事故に対する見舞金として通院1日につき1000円（保護者は

1400円）、入院一日につき1200円（㊦1800円）が給付されます。

②幼児児童生徒の学校管理下外の死亡弔慰金が支払われます。

③幼児児童生徒が疾病等で亡くなったり、保護者が事故や疾病等で亡くなったりした場合に供花料をお支払いします。

（その他PTA活動中の保護者の事故への災害給付も行っています。詳細につきましては『ご案内』等をご参照ください。）

共済事業の対象となる幼児児童生徒の数は約26万人。その内、共済金給付は年間で約3000件～4000件です。会費を支払った分の見返りをメリットとするならば、メリットはほとんどないと言っても過言ではありません。

共済事業は保険と似ていて、「困ったときにお互い助け合っていきましょう」という性格の事業です。「自分たちが少しずつ出したお金がだれかの役に立っている。もしもの時は私や私の子供を助けてくれる。みんなが笑顔になれば、私も笑顔になれる。」それが『一人はみんなのために、みんなは一人のために』を理念としている安振会加入の一番のメリットとご理解していただき、ご加入いただければ誠に幸いです。

健全な成長と体力向上を目指して

～体力・集中力UP～
横浜市立 市ケ尾小学校

1 本校の現状

本校の児童は、元気で明るく、外遊びを好む傾向にある。学習においては、全国学力・学習状況調査の結果から、全国平均を上回る学年も多く、校内でも意欲的に学習に取り組む姿が見られる。

一方、体力テストなどでの数値を見ると多くの課題が見えてくる。体力向上に向けて学校としても具体的な実践が必要となることがわかってきた。

身長・体重・座高は、ほぼ全国平均と同じである本校の児童にアンケートを行った結果、毎朝朝食を食べている児童は91%と高く、運動やスポーツを毎日している児童が34%、週1・2回と答えた児童が49%となった。

特徴的なのは、高学年になるにしたがい、塾や習い事に通う児童が増加し、外遊びの運動から遠ざかる傾向がある。それを考慮に入れた体育学習や健康に関わる学習、さらには、生活指導が必要と思われる。



2 体力向上への取組

(1) 市ケ尾小 朝ランニングの実施

本校では、12月から1月まで朝の時間を使って、10分間走を行っている。3年生以上の児童を対象に活動している。ちびっこ駅伝の練習として取り組んでいる児童もおり、それぞれが思い思いに走っている。

開門前の時間に青空のもと、150人以上の子どもたちが一斉に校庭を走る姿は圧巻である。教員も一緒になって走り、朝のさわやかな時間を過ごしている。

自分たちで目標を立て、「今日は〇周走れたよ!」と汗びしょりに達成感を伝えてくれている。全員で準備体操をし、「今日のポイント」を担当教員が伝えたら、一斉にスタートラインに立つ。そこから自分への挑戦が始まる。

(2) なわとび補助板の設置

本校では、校庭の横になわとび補助板が年間を通して設置されている。8台のジャンプ台は手作りではあるものの、苦手な児童もチャレンジできる「背中後押し器」ともなっている。毎日、休み時間になると多くの子どもたちがなわとびを片手に補助板へ集まってくる。そこに一人の先生が行けば、瞬く間に「見て!見て!」の嵐となる。なわとびというツールを介して、物事への向き合い方や苦手なものを克服する充実感を味わってもらえればそれ以上のことはない。

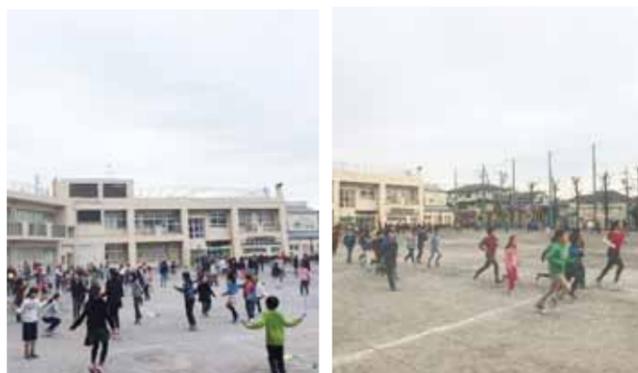


(3) なわとび週間の取組

体育科学習のカリキュラム上にもなわとびの学習はあるが、それとは別に運動委員会の児童を中心に休み時間を使って「市ケ尾なわとび週間」を設定している。3種類のなわとびカードを発行し、全児童へ配布。(低学年用・高学年用・個別支援学級用)

なわとび検定カードは、授業内でも使用され、ポロポロになるまで子どもたちは使い切る。なわとび週間は、期間内に前半と後半で分けられ、通常のなわとびから長なわとびに移っていく。年度末には1級から5級までの児童の名前が廊下の掲示板で紹介され、子どもたちの中でも盛り上がりを見せる。

友達から友達へ技の伝授が行われたり、先輩から後輩に教えたりする場面も見られ、異学年交流の場ともなっていることは大きな価値があると言える。



3 姿勢への取組

○学校保健委員会による良い姿勢についての取組

本校の学校保健委員会では、テーマを「良い姿勢グー ピタ ピン で元気100倍」に設定し、姿勢を良くして体幹を鍛え健全な成長と体力向上・集中力アップを目指した。この活動により、学校でのケガも少しでも減らしたいと考えた。

(1)姿勢についての事前調査

全校児童に姿勢についてのアンケートをとり、実態の調査をした。

- ①姿勢を注意されたことがない児童は30パーセント程度だった。
- ②姿勢をよくするための具体的な方法を知らない児童は半数程度だった。
- ③自分の姿勢を良いと思うのは、低学年のほうが多かった。
- ④姿勢を良くしようと思っても難しいと思っている児童は40パーセント程度だった。
- ⑤姿勢を良くしようと思う児童は85パーセント程度と多かった。

(2)姿勢についての講演会(前期学校保健委員会)抜粋

虎ノ門カイロプラクティック院院長 碓田拓磨(うすだ たくま)先生を講師としてお招きし、4~6年生の児童が講話を拝聴し、学んだ。

演題 一生の宝「姿勢体力」の作り方

- ①背中を伸ばす体操 キャットレッチ
(丸まってしまうのをふせぐのに効果的)
・手を後ろで組み、けんこうこつでレモンをしぼるようにする。息を細くぬく。(鼻から吸って口で出す。3秒かぞえる。)肩は引くがお腹は出さない。
- ②基本姿勢
・立っている時の腰のカーブと頭の位置を覚えて座る。
・足の裏をつけて、手のひらは足のつけねにおく。
- ③姿勢体力
45分保つことができれば姿勢体力がついたということ。体力づくりになる。
- ④姿勢体力の効果
・姿勢体力がつくと良いことがたくさんある。
・酸素を多く吸えることから、頭の回転が速くなる。
・持久力がつく。
・スポーツが上手になる。

講演会では児童と碓田先生の質疑応答の時間があり、子どもたちは、より深く姿勢について知ることができた。講演会終了後には、児童学校保健委員が1~3年生に報告を行った。

(3) 姿勢を良くするためのクラスの取組

姿勢を良くするためにどんなことをしていけば良いかクラスで話し合い、一年間取り組んだ。また、各クラスの目標は、保健室前に掲示している。

(4) 姿勢がんばりカードの取組等

普段の自分の姿勢を前かがみかどうか等いろいろな姿勢のイラストから確かめた。自分のめあてを設定し、一週間、クラスのめあてと自分のめあてをできたか記録し、最終日に振り返りを行った。児童学校保健委員が、「良い姿勢これからもつづけま賞」という賞状を作成し、クラスで活用した。

(5) 児童学校保健委員の姿勢体操全校放送

保健委員会の児童が動画で全校に向け、姿勢体操動画を制作し、放送した。全校児童は食い入るように見ている。

(6) 事後アンケートを実施、1年間の取組の振り返りを行った。

事後アンケートから、
①基本姿勢を覚え、よい姿勢の習慣がついた。
②キャットレッチを行っていた。



- ③基本姿勢を5分間保つことができた児童が増えた。
また、基本姿勢を45分保つことができるようになってきた。(姿勢体力の向上)
- ④姿勢を良くするメリットがわかった。

碓田先生からの講話、さらに各クラスで取り組んできたことで、児童の体力も向上し・集中力もアップしつつある。一生の宝になるように今後も継続していく予定である。

まとめ

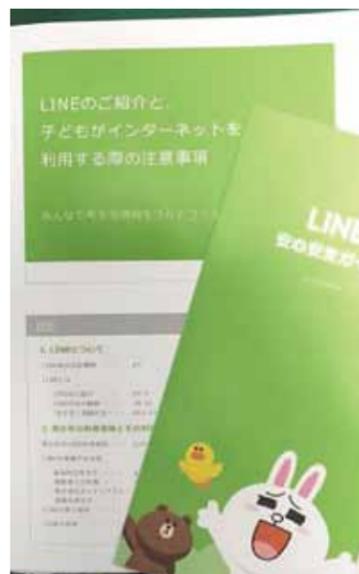
市ケ尾小学校は、まもなく40周年を迎える。40年前と現代の子どもたち。環境的なものや経済的なものについての変化はあるだろう。また、今日言われている体力の低下もやはり考えられる。しかし、子どもが内包する本質的なものに関しては何一つとして変わってはいないのではないだろうか。いつの時代も子どもたちが明日を楽しみに学校に来る姿をイメージしながら我々は、教育に向き合っていかなければならない。

健全な成長と体力向上を目指すことは、改めて子どもたち一人一人を見つめることである。そして、ねらいを込めた具体的な取り組みや活動によって、力を最大限に引き出していくことが重要だと感じている。これからも市ケ尾小学校は、探求し続けていきたい。

平成28年度 役員理事研修会 LINEの紹介と子どもがインターネットを利用する際の注意事項 ～みんなで考える情報モラルとコミュニケーション～

横浜市PTA連絡協議会

日時：平成29年1月18日（水） 場所：青少年育成センター第1研修室
講師：LINE株式会社啓発事業担当 LINEオフィシャルインストラクター 柴田保文氏



インターネット普及に伴う啓発活動を行っている、LINE株式会社啓発事業担当の柴田氏をお迎えして表題のテーマを下に講演会を開催いたしました。

当日は2部に分け、1部では講演会、2部ではワークショップを行いました。

講演会では子どもたちがもっとも利用しているLINEの紹介から始まり機能や利用方法、子どもたちの利用実態や啓発について学びました。

特に「考え方の違い」では、何をされたらイヤなのか?を考え、カードを使い順番をつけ人それぞれの考えに違いがあることを実体験しました。

ワークショップでは参加した理事から多数の意見交換がなされ、その中でもインターネットの利用を最初から否定するのではなく、保護者と子どもが話し合いをして理解をしながら、約束・責任・思いやりを考え、親子のコミュニケーションがとれていれば大丈夫との意見もありました。

この研修会には市内18区のPTA代表の方、高等学校部会及び特別支援学校部会のPTA代表の方が出席されました。今回の講演は児童生徒向けや保護者向け等、受講対象に応じた講演依頼ができるので、各方面よりインターネット利用の啓発活動の一助になればと願っております。

インターネットでのSNS等の利用は年々低年齢化しており、特にツールとして利用が多いのはLINEです。最近のデータで青少年のLINE利用実態では、高校生で95% 中学生で59% 小学生でも37%になっています。

友達同士でのコミュニケーションツールとしても利用されていますが、部活や親との連絡手段としても幅広く利用されておりとても便利です。その分LINEの利用時間が伸び、30分未満が33%に対し3時間以上が25%ととても利用時間が長いと感じました。

LINEで起きるトラブルも増加している中、この便利なツールを快適に活用するには、やはり個人のモラルや保護者と子どものリアルコミュニケーションが一番大切だという事を改めて実感し学びました。

何気ないひとつの文章が人を傷つけないために、そして子どもたちのために「おとなも育とう、子どもと共に～PTAで築く信頼・規範・ネットワーク～」をスローガンに横浜市P連は今後も取り組んでまいります。



「ひろげよう ぼくのつばさ わたしのつばさ展 2016」を開催して

社会福祉法人 青い鳥

平成28年8月17日(水)～21日(日)まで、法人設立50周年記念事業の一つとして、横浜市民ギャラリー(西区宮崎町26-1)で、展覧会を開催しました。障害の有無を問わず募集した子どもたちの自由な絵画や、50年前に売り上げで小児病院を建てようと画家やイラストレーターらが絵を描いて販売したマッチ箱など約380点を展示し、5日間で1,300人が来場しました。

アートはコミュニケーション!!

今回の展覧会は、日ごろ発表の機会が少ない障害児・者の作品も健常者の子どもたちの作品と一緒に展示し、来場者に見ていただき、作品に描かれた色や形を通して、理解を深めていただくというものです。学習障害があり、東京大学の異才発掘プロジェクト「ROCKET」(ロケット)で絵の才能を認められ支援を受けている濱口瑛士さん(14歳)に展覧会のナビゲーターをお願いしました。障害があっても自分らしく生きようと頑張っている濱口さんは、「ふだん、健常者、障害者はそれぞれ違う世界にいるかもしれませんが、



濱口瑛士さん

こうして一緒に参加することで、マーブル模様のようなすてきな世界を作れます」と話し、ポスターや案内チラシの制作にも参加。会期中は、毎日来館者と絵を描くワークショップで交流しました。また、事前に募集した中学生・高校生もボランティアとして、作品を探している人への声掛けやワークショップで遊ぶ小さな子どもへの目配りなど、コミュニケーションを基本とした活動をしました。

- 来館者から次のような感想や意見をいただきました。
- ・絵を描くことは心を豊かにする。
 - ・アートは多様な価値観そのものであり、心を開放するものだと思う。
 - ・形にとらわれず、そのアーティストが何を表現したのかを理解することで現代社会のコンプレックスを解消できる。
 - ・何かを作ることは、自分を肯定することである。
 - ・言語化が困難な人の声が聴ける。
 - ・アートは普段接点の少ない、お互いを知らない人

でもふれあえる場を与えてくれる。

・文字が無くても伝わり、人の心を動かすもの。

・言葉にたよらず自分を表現できる。頭の中、心の中の想像、思いを表現することができるのでアートを通してコミュニケーションが取れる。

・アートは個人そのものであり、垣根は存在しないから、そういう点で偏見や差別を抜きに純粋につながる事ができる。

また、障害のある子どもを育てていらっしゃる親御様が「本人の絵を通して何に興味があるのかを知ることができました。言葉での表現ができなくても絵で表現できることを知りました。」と話されていました。一番近くにおいて、愛情を注いでいても言葉の壁は高かったよう



遊べる作品 (光さすダンボール)

です。子どもの心と親の思いが作品を通して、つながりました。

これからも、人と人をつなぐ事業を通して、障害の種類を越えて、子どもたちや親御様の問題に向き合い、福祉と医療が一体となった対応につとめていきます。

最後に、この展覧会にご理解とご支援をくださった(一財)横浜市安全教育振興会に心から感謝申し上げます。

経営企画本部 霜田 恵

※「青い鳥」は昭和41年、「子どもたちの未来をひらく会」からの寄付金をもとに「財団法人神奈川県児童医療福祉財団」としてスタートしました。現在は、全国初の療育機関である「小児療育相談センター」を中心に発達障害児・者及び家族の充実した生活実現に寄与する診療相談や就労支援、子育て支援に関わる事業を展開しています。

単位PTA 助成金

単P助成金って？

安振会では各単位PTAが行っている3項目に当てはまる事業に対し助成をさせていただいております。

親子がともに有意義な時間を過ごし、その事業が子どもたちに還元されるような活動です。

3項目とは

- * 安全教育推進に関する普及啓発活動を目指した事業
- * 幼児児童生徒及び青少年等の健康の保持増進
- * 幼児児童生徒及び青少年等の健全な育成と福祉の増進を目指した事業

？うち以外はどんな事業をしているの？

毎年、各PTAさんが工夫を凝らしいろいろな事業にとりくんでいらっしゃいます。どんな事業があるのでしょうか。



浦島小 フットバッグ大会



山下みどり台小 日体大パフォーマンス



洋光台第一小 木っ端で街作り工作教室



橘中 (畑作りからはじめた) 野菜作り



菊名小 茶の湯体験



茅ヶ崎東小 科学フェスティバル

平成28年度安全教室

日本赤十字社の指導員による救急救命法教室

7月15日(金)	16名
9月9日(金)	16名
9月30日(金)	16名
10月14日(金)	14名
11月4日(金)	14名
11月25日(金)	16名
1月20日(金)	13名

- 救急救命法教室アンケート結果
- 実際に体験することができてよかった。
- 定期的に学びたい。
- 学ぶことで、心構えも違ってくると感じた。

会場：(一財)横浜市安全教育振興会 事務局
 時間：9:30~11:30
 内容：心肺蘇生法、「AED」の取扱い、止血法 等



横浜市民防災センターの職員による講習と見学体験

7月14日(木)	49名
9月13日(火)	41名
9月29日(木)	30名
10月12日(木)	40名
11月22日(火)	34名

- 防災安全教室アンケート結果
- 防災を考える機会になった。
- 災害を疑似体験することで、より身近に感じる事が出来た。

会場：横浜市民防災センター
 時間：10:20~12:00
 内容：防災講和、地震等災害体験、減災トレーニング等



役員コンプライアンス研修会

9月30日(金)

会場：(一財)横浜市安全教育振興会 会議室 文部科学省の担当の方に指導していただきました。

第30回「健康と安全」ポスター展

展示期間：平成28年12月19日(月)~平成28年12月23日(金)

展示会場：横浜情報文化センター

応募点数：362点

受賞作品：特別賞12点 入選12点 佳作15点

審査委員

横浜市立中学校美術研究会会長 長澤 博昭 先生
 (横浜市立芹が谷中学校長)

横浜市立小学校図画工作研究会会長 瀧澤 優子 先生
 (横浜市立西寺尾小学校長)



第30回 「健康と安全」 ポスター展受賞作品

横浜市長賞



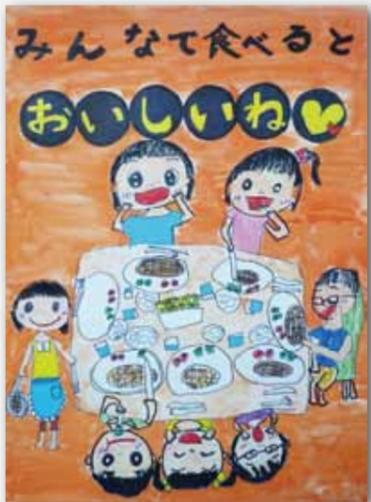
「やめよう あるきスマホ」
和泉小学校2年 新海 博章

横浜市長賞



「話そう 今日あったこと」
新田中学校3年 山口 凜

横浜市教育委員会
教育長賞



「みんなで食べるとおいしいね」
菅田小学校3年 橋見 優奈

横浜市教育委員会
教育長賞



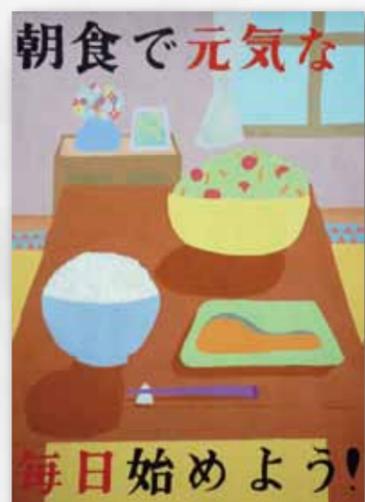
「規則正しい生活で免疫力を高めよう」
左近山中学校2年 湯田 真珠

横浜市教育委員会
教育委員会賞



「いろいろなふれあいがげんきな心を育てます」
間門小学校5年 翠川 杏子

横浜市教育委員会
教育委員会賞



「朝食で元気な毎日、始めよう!」
左近山中学校1年 大古田 玲奈

横浜市交通安全教育振興会
理事長賞



「みんなでかぶろうヘルメット」
下末吉小学校4年 加藤 光紗

横浜市PTA連絡協議会
会長賞



「しせいをよくしよう」
東中田小学校5年 勝田 小百合

横浜市交通安全教育振興会
理事長賞



「大切な命 STOP! 地球温暖化」
都岡中学校3年 武藤 瑞紀

横浜市PTA連絡協議会
会長賞



「未来へつなごう 森の命」
左近山中学校3年 水口 加菜

神奈川新聞社賞



「環境を大事に」
綱島小学校6年 矢野 結子

神奈川新聞社賞



「後始末をしっかりと」
左近山中学校2年 堀 晃輔

平成28年度 加入状況

校種	賛助会員数	世帯数
小学校	337	142,683
中学校	135	69,729
高等学校	5	4,228
特別支援学校	12	1,467
総計	489	218,107

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる)

平成28年度 評議員名簿

役職名	氏名	備考
評議員	大槻 繁美	学識経験者((公財)よこはまコース理事総務部長)
評議員	工藤 春治	学識経験者(横浜市子ども会連絡協議会会長)
評議員	栗原 聡	学識経験者(NPO法人ハマのトウダイ理事長)
評議員	堀 英雄	学識経験者(神奈川県立高等学校安振会評議員)
評議員	古橋 正人	横浜市教育委員会総務課長
評議員	矢田 弘	中学校長会総務
評議員	土志田 浩	横浜市PTA連絡協議会副会長
評議員	丸山 智美	横浜市PTA連絡協議会書記

平成28年度 役員・審査委員 名簿

役職名	氏名	備考
理事長	齋藤 武彦	学識経験者 ○
副理事長	中村 正孝	学識経験者 ○
副理事長	横田 竜一	学識経験者 ○
専務理事	山元 泰弘	安振会事務局長 ○
常務理事	遠藤 志津江	学識経験者 ○
理事	豊田 則夫	学識経験者
理事	三枝木 鉄朗	学識経験者
理事	青木 俊太郎	学識経験者
理事	竹本 靖代	学識経験者
理事	栗原 秀泰	学識経験者
理事	森川 智之	学識経験者
理事	住田 昌治	小学校長会副会長 ○
理事	平野 則行	中学校長会副会長 ○
理事	井川 章弘	特別支援学校長会理事
理事	生田 麻実	横浜市PTA連絡協議会会長 ○
理事	山下 久美子	横浜市PTA連絡協議会副会長 ○
理事	樋口 眞砂子	横浜市PTA連絡協議会副会長
監事	田屋 多恵子	小学校長会副会長
監事	海上 良太	横浜市PTA連絡協議会副会長

○印は審査委員兼務

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦
審査委員	和田 廣己	横浜市医師会推薦
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦

平成28年度 上期 供花料等給付一覧表

平成28年4月1日～平成28年9月30日まで (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1) 児童生徒供花料	児童	3	90,000
	生徒	4	120,000
	小学校	43	1,290,000
	中学校	30	900,000
(2) 保護者供花料	高校・特別支援	4	120,000
(3) 教職員供花料		1	30,000
(4) 証明書代等		23	41,600
合計		108	2,591,000

費目	件数	金額	
手数料等	(1) 振込手数料	99	43,524
	(2) その他手数料	2	1,512
合計	101	45,036	
支払総額		2,636,636	

平成28年度 上期 共済 見舞金給付一覧表

平成28年4月1日～平成28年9月30日まで (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額	
1 児童生徒事故見舞金	(1) 傷害事故	児童	1,067	12,581,168
		生徒	91	1,162,810
	(2) 障害	児童	5	144,400
		生徒	0	0
	(3) 交通事故	児童	17	58,030
		生徒	6	18,000
小計		1,186	13,964,408	
2 児童生徒見舞金	(1) 学校管理下外事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
	(2) 交通事故	児童	0	0
		生徒	0	0
	(3) 登下校中の交通事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
小計		0	0	
3 PTA主催共催事故見舞金	(1) 傷害事故		11	229,620
	(2) 障害		0	0
	(3) 交通事故		0	0
	(4) 事故死		0	0
	(5) 往復途次の交通事故死		0	0
	(6) 病死等		0	0
小計		11	229,620	
合計		1,197	14,194,028	

費目	件数	金額	
手数料等	(1) 振込手数料	934	286,848
	(2) その他手数料	4	2,052
合計	938	288,900	
支払総額		14,482,928	

安全教育推進団体に対する助成

申請のあった単位 PTA に対する助成	1校4万円(上限)380校	13,869,743
区・部会 PTA 講演会研修会等助成		3,521,500
横浜市 PTA 連絡協議会事業助成		2,950,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」		300,000
第33回横浜港カッターレース		100,000
社会福祉法人青い鳥「ひろげよう ぼくのつばさ わたしのつばさ 2016」		150,000
第14回学校給食展示会		200,000
第21回野島クリスマスキャンプ2016		200,000
第14回横浜市立小学校タグラグビー交流会		150,000
(社)横浜勤労青少年福祉協会「夏休みお楽しみ教室」		100,000
第60回全国小学校体育科教育研修会横浜大会		100,000
関東甲信越・全日本中学校長会研究協議会派遣事業		300,000
第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会		200,000
横浜ロボティクス教育プログラム		100,000
磯子スポーツ交流会小中学校インディアカ大会		50,000
第60回日本健民少年団連合全国大会		100,000
よこはま食育財団「食育推進事業親子料理教室」		50,400
青葉区小中高生ミュージカル		50,000

平成28年度 区部会講演会研修会一覧

区名	開催日	事業名	会場	講師
鶴見	12/3(土)	講演会「子どもに自信とやる気を引き出す」～勇気づけの子育て	鶴見公会堂	原田 綾子
神奈川	11/26(土)	講演会「勉強ってなに?」～これからの時代が求める資質・能力～	神奈川公会堂	高木 展郎
西	2/24(金)	講演会「地球のステージ」	西公会堂	桑山 紀彦
中	1/17(火)	講演会「家族が仲良く暮らすためのヒント」～親子のコミュニケーションと住環境～	横浜開港記念会館	西田 恭子
南	2/4(土)	講演会「～今、メンタリストが伝えたい～やる気を引き出すポジティブ子育てメンタリズム」	蒔田中学校	Daigo
港南	9/23(金)	講演会「家庭に活かすメンタルトレーニング」～やる気を高める目標設定	港南公会堂	望月 康宏
保土ヶ谷	12/14(水)	講演会「これからの時代の力を強く生きる子ども」	保土ヶ谷公会堂	野口 徹
旭	11/16(水)	講演会「まとまらない話」	旭公会堂	兵藤 哲夫
磯子	1/27(金)	講演会「スポーツから学ぶ、自ら気づき行動する力」(夢や目標を持ち続けよう)	磯子公会堂	大谷 未央
金沢	12/6(火)	講演会「ありのままのきみがいい」	磯子公会堂	日高 庸晴
緑	12/19(月)	講演会「子は親の鏡、子どもから学ぶ自分育て～自己肯定感の高い子どもに育てるために」	みどりアートパーク	山口 ひとみ
青葉	11/24(木)	講演会「楽しみながら子どもの人間力と学力を伸ばすには?」	青葉公会堂	親野 智可等
都筑	1/19(木)	講演会「思春期ブギ 完璧な親なんていない!今しかできない子育ての楽しみ方」	都筑公会堂	高野 優
戸塚	12/2(金)	講演会「ほんとうの幸せとは・・・ともに生きる」	戸塚公会堂	Paix2(ペペ)
栄	12/2(金)	講演会「可能性を信じる子育て」～みんなちがって、みんないい～	栄公会堂	うすい まさと
泉	11/12(土)	講演会「ブラザートムさんの子育て奮闘記」～親から子に贈る心あたたまるプレゼント～	泉公会堂	ブラザートム
瀬谷	11/29(火)	講演会「子育て・個育て・孤育て!」	瀬谷公会堂	朝岡 聡
高校	10/18(火)	講演会「パラリンピックがくれたもの」	吉野町市民プラザ	大日方 邦子
特別支援	1/23(月)	講演会「"想い"と"仲間"これがあればどんなことも実現できる!」	鶴見公会堂	紺野 大輝

平成28年度 修学奨励金の給付

小学校	156人	30,000
中学校	50人	40,000
高等学校	5人	60,000
特別支援学校	12人	40,000
計	223人	7,460,000円

平成28年度 賠償事故状況概要

H28年12月現在

総数	校内	校外	自動車	対人	ガラス	メガネ	その他
126	17	109	44	29	13	11	29

ガラス破損の内訳		自動車破損の原因			
校内13件		自転車	石	ボール	その他
小学校	中学校	9件	21件	5件	9件
12件	1件				

自動車事故の内訳		
対車	対人	その他
20件	10件	6件

▶ 横浜市PTA連絡協議会 第33回山下公園ファミリー写生大会



実施日:平成28年4月29日(金)
展覧会:平成28年6月10日(金)~6月13日(月)
表彰式:平成28年6月11日(土)
選外作品返却日:平成28年6月18日(土)
場所:山下公園(写生大会) 横浜市民ギャラリー(展覧会) 横浜市教育会館ホール(表彰式) 横浜市青少年育成センター(作品返却) 参加者:約13,000名

今年は、天候に悩まされ24日は朝から雨が降ったり止んだり。延期の決断をしなければならない事態になりましたが、予備日29日は晴天に恵まれ無事に開催することができました。日程変更にも関わらず多くの方が参加してくださり、皆様が毎年楽しみにして下さっていることを実感しました。役員・担当委員も延期という経験がなく参加者の皆様にはご迷惑をおかけした点もありましたが、この経験を糧に今後も継続事業として取り組んで参ります。

▶ 公益財団法人 よこはま学校食育財団 親子料理教室

実施日:平成28年7月25日(月)~26日(火)

食育事業の一つとして、親子料理教室を実施しました。学校給食献立の紹介と食育の話をして、今年は国際マメ年にちなんで「豆を食べよう!」をテーマにした献立で調理実習を行いました。参加者のアンケートでは、「日頃手作りしない料理が思いのほか簡単で参考になった」「子どもと一緒に作りたい」「また参加したい」という声をたくさんいただきました。また、「子どもが料理に興味を持ってくれた事も良かった」「いつもは食べない食材も美味しそうに食べていた」との感想もあり、自らの食生活に活かす経験にもなったようです。



区・部講演会・研修会助成

▶ 旭区PTA連絡協議会

事業:講演会「まとまらない話」 講師:兵藤哲夫
実施日:平成28年11月16日(水) 会場:旭公会堂
「横浜・兵藤動物病院」兵藤哲夫先生による「まとまらない話」と題した講演会が行われました。近年のペットの老齢化や動物を飼うという事、また畜産動物の話では、普段何気なく食べている肉や卵も「命を食べる」という食の大切さや尊さを感じました。
他にもメディアでのお仕事、動物についての活動や旭区内の学校でPTA役員をされていたご自身の経験などを時折り笑いを交えながら話してくださいました。



▶ 第21回 野島クリスマスキャンプ 2016

場所:横浜市野島青少年研修センター 日時:ふれあいの会
平成28年11月27日(日) キャンプ当日 平成28年12月10日(土)~11日(日) 参加:ふれあいの会 児童生徒・保護者・ボランティア等139名 キャンプ当日 児童生徒・保護者・ボランティア等207名 宿泊147名

ふれあいの会はボランティアとゲームをして交流した後、保護者が(株)鳥勝提供のチキンでカレーを作り食べながら交流した。

キャンプ1日目は受付後、津波対応避難訓練で展望台(57m)に。

開会式は参加者の自己紹介。楽しみなディナーのメインデッシュはローストチキンをクリスマスらしい雰囲気のに飾り付けてある。

キャンドルは金沢高等学校吹奏部の演奏に合わせて歌ったり踊ったりして楽しみ、プレゼントを貰い終了。

2日目は打出庵大黒屋の指導で和菓子作りとY校茶道部の指導により茶道体験をした。

野島クリスマスキャンプは、安振会をはじめ方々に支えられて続けていきます。心より感謝いたします。

